

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和8年1月19日（月）作成

校長 「 松井 渉 」 記述者 職名（ 教頭 ）「 小菅 俊子 」

学校教育目標 「 明るく元気な竜の子 」 の育成

- ・た・・・助け合う子ども・・・（情）
- ・つ・・・強い心を持った子ども・・・（意）
- ・の・・・伸び行く体の子ども・・・（体）
- ・こ・・・根気強く学ぶ子ども・・・（知）

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。

1 全体評価

○本校の学校評価は「Ⅰ学校教育目標に関して」「Ⅱ学校経営・組織について」「Ⅲ学習指導について」「Ⅳ生徒指導について」「Ⅴ地域との連携について」「Ⅵ学校の特色について」「Ⅶ創甲斐教育について」の7項目で実施している。

○「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価（とても思う）とB評価（思う）を肯定的な評価として捉えることとした。その中で、肯定評価の割合が低い質問項目を中心に課題と捉え、改善策を考えて実施していく。

○全般的に教職員・保護者・児童のアンケート結果は、ほとんどの項目が肯定的な評価結果であり、全体的に見て本校教育の充実がうかがえる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

自己評価5項目中4項目において肯定的な評価が100%であったことから、達成状況は良好であると言える。学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。特に「学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」において、昨年度は否定的な評価も見られたが、今年度は改善されていた。

一方、特別支援教育の体制整備と機能化においては、昨年度と同様に肯定的な評価が70%台と低い結果になっている。教職員の欠員状況が続く中、特別な支援を必要とする子どもたちへのきめ細かな指導体制に課題がある。

改善策

これまでと同様に、教育活動の推進にあたっては教職員の意識のベクトルを同じ方向に合わせ、組織的、協働的に職務に当たるようにしていく。また、PDCAサイクルを活用しながら、効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を継続していく。

多様な子どもたちを誰一人取り残すことがないように、日々の支援体制を含めて、特別支援コーディネーターを中心に、校内支援委員会やケース会議の効果的な運用に努め、連携を強化していく。一人一人の子どもたちのニーズに応じた合理的な配慮とその指導法について、学校体制で取り組めるように、教職員間での情報共有を確実に行っていく。

II 学校経営・組織について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>ほとんどの項目において肯定的な回答であり、8項目中5項目は肯定的な評価が100%、2項目は肯定的な評価が90%台となっていることから、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっていると言える。特に「職務上『報告・連絡・相談・確認』を行っている」においては、A評価（とても思う）の割合が高く、非常に良い数値を出している。</p> <p>一方、「適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている」については、肯定的な評価が70%台と低く、負担の偏りを感じていることがうかがえる。また、働き方改革についても肯定的な評価の割合が高いとはいえ、昨年度より低くなっている。</p>
改善策	<p>今後も、校長の指示のもと教頭を中心として、教職員間での情報共有を確実にを行い、連携して教育活動に当たっていく。</p> <p>働き方改革については「きずなの日」「定時退勤日」を設定しただけでは働き方改革とは言えない。実効性を高めるため、視覚的にわかりやすく示したり互いに声を掛け合ったりしながら、見通しをもって業務を遂行できるようにする。また、校務分掌については、適材適所を心がけ、分掌に過剰な偏りが生じないよう配慮していく。</p>
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>7項目全てにおいて肯定的な評価が90%を超えている。特に「ICTを効果的に活用した授業を行っている」は昨年度より肯定的な評価が約4%向上しており、日常的に活用していることがわかる。また、保護者アンケートから「学校は熱心に授業に取り組んでいる」の肯定的な評価が88.2%、児童アンケートから「先生はよく勉強を教えてくれる」の肯定的な評価が93.8%と、熱心に授業に取り組んでいることがわかる。</p> <p>一方で、昨年度肯定的な評価が100%だった「協働的な学びを取り入れた授業を行っている」については96.7%に、「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」については93.3%に下がっている。「忘れずに宿題をしているか」について、しているまたはだいたいしていると回答した児童は84.2%、保護者は92.2%だった。しかし、宿題以外の学習については、いつもしているまたはだいたいしていると回答した保護者は47.5%と、半分を切っていた。また「学年の目安の時間を勉強している」については、学年が上がるにつれて肯定的な評価が下がり、高学年においては53.6%になっている。勉強や読書にかかる時間よりもスマホやタブレット、ゲーム機に向かう時間の方が多くなっている。さらに「クラスに仲のよい友達がいる」と回答した児童が91.9%、「困ったことがあったら相談できる先生がいる」と回答した児童が87.8%と、関係性は築けているにも関わらず、「わからないことがあったら先生に聞いている」と回答した児童は66.0%、「人前でしっかり自分の意見を言うことができる」と回答した児童は61.2%にとどまっていた。</p>
改善策	<p>今後も学年主任を中心に各教科の学習評価を再確認し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行うようにしていく。学習の「めあて」はその授業の評価基準もあらわしている。引き続き「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」とそれに正対する「まとめ」を明確に意識した授業づくりを行っていく。</p> <p>各家庭に配布している「家庭学習の手引き」を活用し、より家庭との連携を深めていく。また、個別懇談や学年だより等を通して、自主学習の取組方法やスマホ・タブレットの使用、読書のすすめ等について、各家庭への啓発に努めていく。さらに校内研究会で研究を深めながら、ICTを効果的に活用しながらも、協働的な学びや自分の考えを発言する機会を大切に、授業改善に努める。</p>
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	

達成状況	<p>6項目中4項目は肯定的な評価が100%だった。特に「生徒児童理解のために、コミュニケーションを図っている」について、とてもそう思うと回答した割合が高く、児童も「困ったことがあったら相談できる先生がいる」と肯定的な評価をした割合が87.8%となっている。また、「学校は楽しい」と肯定的な評価をした児童は87.6%となっており、児童とのコミュニケーションが図られ、多くの児童にとって学校は楽しい場所となっていることがわかる。</p> <p>一方、昨年度は全ての項目において肯定的な評価が100%であったが、「キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている」「『明るく元気なたつの子15か条』を意識して、生徒指導に取り組んでいる」については、96.7%にとどまっていた。児童の回答も「将来の夢や希望をもっている」については、肯定的な評価が学年が上がるにつれて下がり、「『明るく元気なたつの子15か条』を守るように心がけている」については、肯定的な評価が91.8%から83.5%に下がっている。保護者の回答も「生活規律、学習規律に力を入れて取り組んでいる」について、肯定的な評価が75.4%からさらに70.8%にまで下がっている。</p>
改善策	<p>子どもたちの問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何よりも重要である。できるだけ素早い行動ができるよう、日ごろから学校経営の充実を図ったり児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていく。特に、保護者対応については、各担任が連絡帳や電話でのやりとり等、丁寧に関わりながら信頼関係を築いていく。また、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、ケース会議や校内支援委員会を状況に応じて開いたり、SCやSSW、市の子育て支援課、県の児童相談所等の関係機関と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていく。</p> <p>また、キャリアパスポートを有効に活用し、今の自分が未来の自分に繋がっていくことを意識させるようなキャリア教育の必要性を感じる。キャリア教育主任を中心として、全校体制で取り組んでいく。さらに、『たつの子15か条』においては、教職員、児童が折に触れて確認し、規範意識を高めていく。</p>
<p>V 地域との連携について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<p>5項目中3項目の肯定的な評価が100%で、残りの2項目も90%以上であったことから、達成状況は良好であったと言える。保護者の回答から「子どもが地域の行事に参加している」と肯定的な評価を回答した割合が80%近くに上り、地域とのつながりが感じられる。また、「授業参観や学校開放などは、子どもの様子を知る機会になっている」について肯定的な評価を回答した割合が93.2%に上り、学校や子どもの様子を知るいい機会となったことがわかる。さらに、ミシンボランティアや農業体験、お店探検等、地域の協力を得ながら教育活動を進めてきた。さらに、保護者や地域住民による子どもたちの見守り、通学路点検等、安全面においても協力を得ることができた。</p> <p>一方、昨年度は全ての項目で100%であったが、今年度は「保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞く機会を設け、情報収集を行っている」「学校の教育活動について、便りやホームページを通して保護者や地域に広報している」については、100%に達しなかった。保護者用アンケートからも、特に「学校日より、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」について、肯定的な評価が95.9%から84.9%にまで下がっている。</p>
改善策	<p>学校からの情報発信については今後も、学校日よりやホームページを積極的に活用していく。また、本校は保護者への連絡手段として安心メールの加入率が100%である。安心メールの配信でよいもの、紙ベースで周知した方がよいものを精査しながら、効果的に情報を発信し、開かれた学校として説明責任を果たしていく。</p> <p>学校運営協議会を設置して2年目になる。社会に開かれた教育課程を実現するためにも、委員との連携は不可欠である。学校行事等へは積極的に来校していただき、学校の様子を見ていただきたい。その上で、意見をいただき、子どもたちのためにどのように連携していくことがよいか話し合いを進めていきたい。</p>

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>自己評価では5項目全てにおいて肯定的な評価が90%以上であった。特に「地域協力者への情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている」「教育機器（ICT機器を含む）を、効果的に取り入れた活動を行っている」については、肯定的な評価が100%であった。ICTに関しては、個別最適で協働的な学びを意識した授業づくりにおいて、教育機器を効果的に取り入れてきた結果であると言える。</p> <p>一方、昨年度肯定的な評価が100%であった「児童が意欲的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている」は、今年度93.3%に、「児童が学校行事や校外学習など教育活動に進んで取り組むよう、指導に努めている」は96.7%に下がっている。</p>
改善策	<p>読書活動に関しては、司書や図書委員会を中心に本の面白さを伝えながら、家庭学習と同様に、学校と家庭とで連携して進めていく必要がある。</p> <p>今後も、校長が示す経営方針を教職員が共通理解し、学校の長所を伸ばし、短所を改善しながら学校の特色化を図っていくことが大切である。教職員が入れ替わり、担任が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができるようにしていかなければならない。</p>
VI 創甲斐教育について	
達成状況	<p>3項目のうち2項目において、肯定的な評価が100%となっていた。「国語力向上のための取組が行われている」については、昨年度は100%であったが、今年度は96.7%であった。しかし、児童用アンケートの「国語の授業がわかる」とする割合が95%に届かないものの、84.3%と高い割合を示している。確かな学力の育成には言語能力の向上は不可欠である。また、ICTを効果的に取り入れた授業を行っている割合が増えたり、体育の授業で外部講師を招いたりする等、これは、教職員が教育活動を通して、創甲斐教育を意識して取り組んでいる表れだと考えられる。</p>
改善策	<p>創甲斐教育について、その意義を全職員で共有しながら、今後も教職員一丸となって取り組んでいく。日常の授業や校内研究会での実践に加え、各種学力テストの結果や・体力運動能力・運動習慣等調査の結果から児童の実態を把握し、目指す児童像を明確にしなが、組織的・計画的に取り組んでいくことが必要である。</p> <p>人事評価と関わって、教職員の自己観察書作成時には、創甲斐教育のピックアップ施策にもかかわった取り組みを設定し、年間を通して創甲斐教育の推進に取り組めるようにする。</p>
3 まとめ	
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営、教育活動を行うことができおり、特に「報告・連絡・相談・確認」を確実にやっている。 ・ICTを効果的に活用した授業づくりを行っている。 ・教職員と児童とのコミュニケーションが図られ、児童にとって学校が楽しい場所となっている。 ・授業参観や学校開放を通して、多くの保護者や地域の方に来校していただき、学校や児童の様子を知っていただいた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校体制で取り組む特別支援の体制づくりや、負担の偏りの少ない校務分掌を考えていく。 ・スマホやタブレット、ゲーム機に向かう時間を削減し、家庭学習や読書を推進する取組を行う。 ・生活規律・学習規律を全校で統一して指導していく。 ・保護者や地域の声に対して、傾聴・共感を心がけ、情報の発信については、ホームページや安心メールでの配信がよいのか、紙ベースでの周知がよいのか精査していく。 	